

「キンモクセイの木の下で (1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

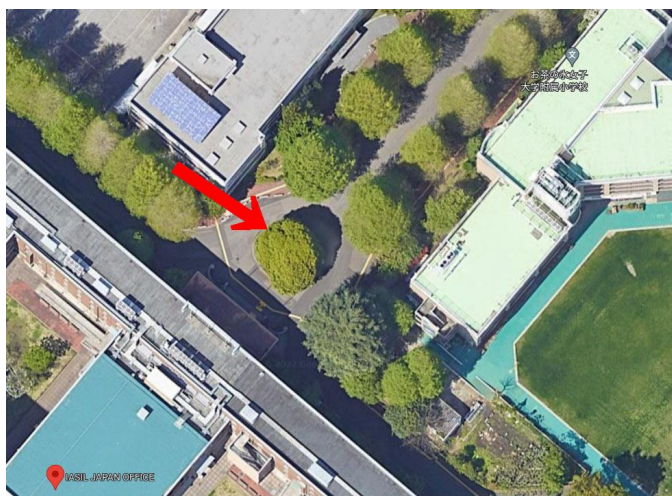
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

今年もキンモクセイの花の時期がきた。キンモクセイの花は一つひとつはとても小さく、見た目では咲いたことに気づきにくい。しかし、あの強い芳香で、「鼻」で「花」に気づくことが多い。香りは、小学校の校舎内にまで入ってくる。



お茶の水女子大学には、すばらしいキンモクセイの樹がある。イチヨウ並木のつきあたり、大学講堂の入口にある、堂々たる樹だ。1本の幹に見えるが、実際は3本の幹が手入れされて、このような巨大で美しい樹容を形成している。大学の「シンボル・ツリー」の一つと言って良いだろう。



(グーグルマップより)

航空写真で見ても、その巨大さがわかる。→がキンモクセイ、その右上(北東側)と左(西側)の木々は、

イチヨウ並木だ。キンモクセイの右下の濃い緑の樹はヒマラヤスギである。キンモクセイはそれらに負けないほど大きな面積を占めている。



(国土地理院提供)

このキンモクセイは、私が附属小学校に赴任する前からこの場所にあった。写真は1979年(昭和54年)撮影の航空写真だ。→がキンモクセイである。現在より小さいが、すでに植えられていたことがわかる。右側の「コの字型の校舎」は、附属小学校の旧校舎である。私が赴任した時は、新校舎への引っ越し直後だった記憶がある。



植え込みには歌碑が建っている。歌碑にはこのように刻まれている。

みがかずば 玉もかがみも なにかせん
学びの道も かくこそありけれ

これは昭憲皇太后(明治天皇の皇后)の作で、大学全体の「校歌」となっている。小学校を含めた附属学校でも、入学式、始業式、卒業式などの行事のたびに歌われている。